

プレスリリース

開館 40 周年記念

源氏物語 THE TALE OF GENJI

—「源氏文化」の拡がり 絵画、工芸から現代アートまで—

THE TALE OF GENJI: Unfolding Narrative of Art and Culture from the Past to Modernity

東京富士美術館では、2024 年 2 月 24 日(土)より 3 月 24 日(日)まで、「開館 40 周年記念 源氏物語 THE TALE OF GENJI —「源氏文化」の拡がり 絵画、工芸から現代アートまで—」を開催します。

紫式部によって執筆された『源氏物語』は、平安時代中期に成立して以来読み継がれ、現在でも広く愛読されています。主人公・光源氏を中心に、貴族社会における栄華や恋愛模様を叙情豊かに表したこの物語は、文学、絵画、工芸、芸能、香道など幅広い分野に影響を及ぼし、「源氏文化」と総称し得る文化現象を生み出しました。

とりわけ、物語場面を絵画化した「源氏絵」は流派や時代を越えて数多く描かれ、人びとに享受されてきました。本展覧会では、「源氏絵」を中心として、『源氏物語』や紫式部にまつわる美術、工芸、文学作品を紹介します。本展覧会が、それぞれの作品を通して物語を追体験し、『源氏物語』の世界を身近に感じる機会となれば幸いです。

◆開催概要

展覧会名： 開館 40 周年記念

源氏物語 THE TALE OF GENJI

—「源氏文化」の拡がり 絵画、工芸から現代アートまで—

THE TALE OF GENJI: Unfolding Narrative of Art and Culture from the Past to Modernity

会 場： 東京富士美術館 本館 企画展示室
〒192-0016 東京都八王子市谷野町 492-1

会 期： 2024（令和 6）年 2 月 24 日（土）～3 月 24 日（日）
2 期展示替
前期： 2 月 24 日（土）～3 月 10 日（日） ※16 日間
後期： 3 月 12 日（火）～3 月 24 日（日） ※13 日間

休館日： 毎週月曜日

開館時間： 10:00～17:00(16:30 受付終了)

入場料金： 大人 1,500(1,200)円、大高生 900(800)円、
中小生 500(400)円、未就学児無料
※新館常設展示室もご覧になれます
※（ ）内は各種割引料金 [20 名以上の団体、65 歳以上
の方、当館公式 SNS 登録者ほか]
※土曜日は中小生無料
※障がい児者、付添者 1 名は通常料金の半額 [証明書を
ご提示ください]

主 催： 東京富士美術館

後 援： 八王子市、八王子市教育委員会

協 力： 源氏絵データベース研究会、
一般財団法人 民族衣裳文化普及協会

監 修： 稲本万里子（恵泉女学園大学 教授）

問い合わせ先： TEL.042-691-4511 FAX.042-691-4623

E-mail:toiawase@fujibi.or.jp

◆展示構成

第一部 『源氏物語』とその時代

『源氏物語』が成立して間もなく、その絵画化は始まったとされており、その豊かな表現は現存最古の「源氏絵」である国宝《源氏物語絵巻》に見ることができます。本セクションでは、物語が成立した平安時代の美術・工芸品とともに、模本や再現された装束を展示し、王朝文化の一端をご覧ください。

○主な出品作品：

重要美術品 尾形光琳《紫式部図》江戸時代、18世紀 絹本着色 MOA美術館蔵

重要文化財 《法華経 法師品（久能寺経）》平安時代、12世紀 彩箋墨書 東京国立博物館蔵

国宝 《本宮御料古神宝類 緑地彩絵琴箱》平安時代、12世紀 木製彩色 春日大社蔵



【左図版】初公開 《源氏物語小色紙宿木》平安時代、12世紀 紙本着色 個人蔵★

【右図版】伝 寂蓮《源氏物語絵巻詞書断簡（松風段）》平安時代、12世紀 彩箋墨書 書芸文化院 春敬記念書道文庫蔵 ※前期展示★



《復元装束による打出の再現展示／二人の女房による打出の様子》令和3年（2021）
民族衣裳文化普及協会蔵★

第二部 あらすじでたどる『源氏物語』の絵画

『源氏物語』は絵巻や冊子をはじめ、扇面、色紙、屏風など様々な形式で描かれました。ここでは五十四帖のストーリーに沿って、土佐派や住吉派による画帖、絵巻、色紙形式の作品を中心に多種多様な「源氏絵」を紹介します。あらすじの解説を随所に織り交ぜ、物語を理解したうえで作品を鑑賞いただけるように展示します。

○主な出品作品：

土佐光信《源氏物語藤裏葉冊子 表紙絵》室町時代、15～16 世紀 紙本着色 出光美術館蔵 ※前後期で場面替

重要文化財 土佐光吉《源氏物語手鑑》桃山時代、慶長 17 年（1612）頃 紙本着色 和泉市久保惣記念美術館蔵 ※前後期で場面替

住吉如慶《源氏物語手鑑》江戸時代、17 世紀 紙本墨画淡彩 大阪青山歴史文学博物館蔵 ※前後期で場面替

住吉具慶《源氏物語四季賀絵巻》江戸時代、延宝 2 年（1674）～元禄 4 年（1691） 絹本着色 MOA 美術館蔵 ※前後期で場面替



【図版左】重要文化財 《源氏物語絵詞》鎌倉時代、13 世紀 紙本墨画 大和文華館蔵 ※前期展示★



【図版右】重要文化財 絵 土佐光吉／詞 後陽成院 ほか《源氏物語画帖》桃山時代、17 世紀 紙本着色 京都国立博物館蔵 ※前後期で場面替★

第三部 『源氏物語』の名品

桃山時代以降には、大画面に物語場面を描く屏風形式の「源氏絵」も次々に生み出されます。本セクションでは、一隻に一場面を大きく描く屏風や、二～三場面を組み合わせ描いた屏風作品を中心に、大画面「源氏絵」の名品の数々を紹介します。また、「源氏絵」の図様や特徴的なモチーフは、工芸の意匠としても取り入れられるようになります。ここでは、物語を主題とした漆芸品を中心として紹介し、ジャンルを超えた『源氏物語』の広がりを見ていきます。

○主な出品作品：

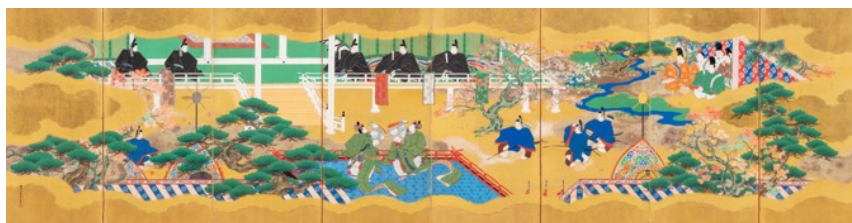
土佐光起《源氏物語図屏風》江戸時代、17世紀 紙本着色 福岡市美術館蔵（森山コレクション） ※前期展示

岩佐又兵衛《和漢故事説話図 浮舟》江戸時代、17世紀 紙本着色 福井県立美術館蔵 ※後期展示

重要文化財 《紫宸殿蒔絵硯箱》江戸時代、17世紀 木製漆塗 個人蔵



住吉具慶《源氏物語図屏風（若菜上・下）》江戸時代、17世紀 紙本着色 根津美術館蔵 ※後期展示★ 【図版左上：左隻、図版右下：右隻】



重要文化財 狩野晴川院養信《源氏物語図屏風》江戸時代、文政9年（1826）
紙本金地着色 法然寺蔵★ 【図版左上：左隻、図版右下：右隻】



《源氏絵彩色貝桶》江戸時代、17世紀 木製漆塗 東京国立博物館蔵 Image:TNM
Image Archives★



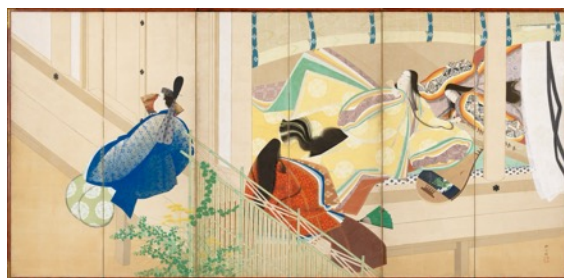
岩佐派《源氏物語図屏風》江戸時代、17世紀 紙本金地着色 東京富士美術館蔵

第四部 近代における『源氏物語』

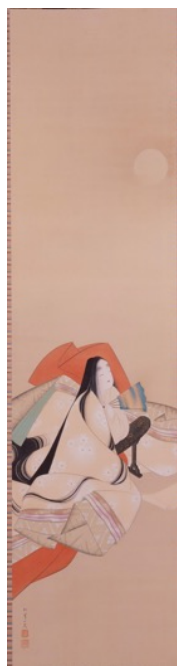
明治時代以降も、『源氏物語』とその作者・紫式部はひとつの着想源としてあり続け、伝統的なやまと絵の手法を重んじつつも、近代的な視点で登場人物の内面や情景に迫る作品が制作されました。本セクションでは、尾形月耕、松岡映丘、上村松園、安田靉彦らによる「源氏絵」を紹介します。また、物語の普及に大きな貢献を果たした、与謝野晶子と谷崎潤一郎による現代語訳本の装丁・挿画にも目を向けます。

○主な出品作品：

安田靉彦《源氏帚木》昭和 31 年（1956） 絹本着色 二階堂美術館蔵



松岡映丘《宇治の宮の姫君たち》大正元年（1912） 絹本着色 姫路市立美術館蔵★
【図版左：左隻、図版右：右隻】



上村松園《紫式部之図》大正 10 年（1921）頃 絹本着色 二階堂美術館蔵★

エピローグ 現代に蘇る『源氏物語』

現代においても、『源氏物語』に触発され、自由かつ斬新な発想で作品を制作する作家は少なくありません。展覧会を締めくくる本セクションでは、現代作家による工芸、文学、漫画等を紹介し、現代における「源氏文化」の様相を探ります。

○主な出品作品：



【図版左】吉岡幸雄《若菜上 女三宮（紅梅の桂と桜の細長）》平成 20 年（2008）
絹、染料 染司よしおか蔵 ©紫紅社★

【図版右】山本茜《源氏物語シリーズ 第一帖「桐壺」》平成 25 年（2013） ガラス
個人蔵（佐野市立吉澤記念美術館 寄託）★

※広報用画像としてご提供可能な作品に、★印を付しています。

◆展覧会の特色

- ・平安時代の「源氏絵」作品《源氏物語小色紙宿木》を展覧会初公開
- ・国内 40 箇所以上の所蔵者から国宝 1 点、重要文化財 7 点を含む約 120 点の『源氏物語』関連美術品・資料を出品
- ・『源氏物語』の影響下で生まれた絵画、工芸、文学など多様なジャンルの作品を紹介
- ・灯明で見る《源氏物語図屏風》の VR、生成 AI を活用した学習ツール実証実験など先端技術を活用した研究成果を反映

◆関連イベント

◎講座「姫君の空間―御簾の下からこぼれ出る女房装束」&十二単着装実演会

2 月 25 日(日) ①11:00～11:45／②14:00～14:45

3 月 17 日(日) ①11:00～11:45／②14:00～14:45

会場：東京富士美術館 ミュージアムシアター

講師：赤澤真理（大妻女子大学 准教授）

実演：一般財団法人 民族衣裳文化普及協会

◎富士美茶会

3 月 2 日（土）10:30- 11:30- 13:00- 14:00- 15:00-（各回 30 分程度）

会場：東京富士美術館／本館 ガーデンカフェ・モネ 和のスペース

料金：1 席 800 円（税込、当日徴収、抹茶・菓子付）

講師：阿部宗栄（裏千家今日庵 準教授）

◎展覧会開催記念・第 11 回源氏絵データベース研究会シンポジウム

『源氏文化研究の最前線』

3 月 10 日(日) 13:00～16:30

会場：東京富士美術館 ミュージアムシアター + Zoom

主催：東京富士美術館、源氏絵データベース研究会

※関連イベントの詳細につきましては今後ホームページ www.fujibi.or.jpにてお知らせします

東京富士美術館について

当館は 1983 年 11 月、東京・八王子市に設立された総合的な美術館です。コレクションは日本・東洋西洋の各国、各時代の絵画・版画・写真・彫刻・陶磁・漆工・武具・刀剣・メダルなど様々なジャンルの作品約 30,000 点で形成されています。

「世界を語る美術館」を“永遠の指針”としてこれまで各国地域の優れた文化を新しい視点から紹介する海外文化交流特別展を国内外で活発に開催し、1990 年には日本の外務省より「外務大臣表彰」を受彰。2008 年には新館がオープンし、常設展示室ではルネサンスからバロック・ロ可可・新古典主義・ロマン主義を経て、印象派・現代にまで至る西洋絵画 500 年の油彩画コレクションが一望できるようになりました。



この件に関するお問い合わせ先
東京富士美術館 企画広報課

TEL.042-691-4825 FAX.042-691-4623 Email:toiawase@fujibi.or.jp

〒192-0016 東京都八王子市谷野町 492-1